

平戸市の温室効果ガス排出量について

令和 7 年 3 月

平戸市では、2020 年 4 月、2050 年までに市内の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティひらど」を宣言し、地球温暖化対策に向けた取組み行っています。

「ゼロカーボンシティひらど」の実現に向けては、2030（令和 12）年度温室効果ガス排出量削減目標の達成や、2050 年度のゼロカーボンシティひらどの実現に向けた取組みを効果的に推進するため、平戸市域全体における温室効果ガス排出量削減に関する「平戸市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」、市役所における温室効果ガス排出量削減に関する「平戸市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しており、当計画に基づき、温室効果ガスの排出量を毎年算出しております。

1 平戸市域の温室効果ガス排出量について

「平戸市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」では、2050 年の「ゼロカーボンシティひらど」の実現に向けた温室効果ガス削減の中期目標として、2013（平成 25）年度との比較で 2030（令和 12）年度 60%削減を掲げています。

2023（令和 5）年度の平戸市域からの温室効果ガス排出量（推計見込値）は、再エネ導入や、地球温暖化対策にかかる各種取り組みなどによる削減効果（貢献度）を踏まえると、推計見込値で 132.9 千 t-CO₂ となっており、平戸市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の基準年度となる 2013（平成 25）年度の排出量と比較すると 42%減少しています。

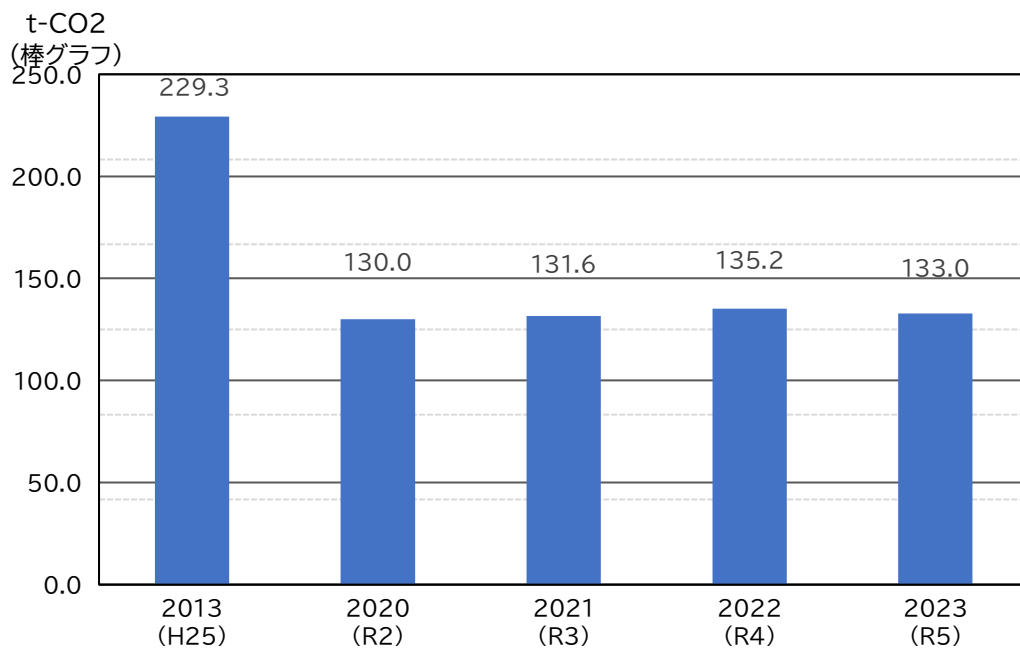


図 1 平戸市域における温室効果ガス排出量※の推移

※温室効果ガス排出量については、再エネ導入や地球温暖化対策にかかる各種取り組みなどによる削減効果（貢献度）を踏まえています。

※温室効果ガス排出量については、国、県等の統計データをもとに本市の社会・経済指数等で案分して算出するものが多く、最新の公表値は 2021 年度のものとなっているため、2022 年度及び 2023 年度については、推計見込値となります。

表1 平戸市域における温室効果ガスの削減目標

項目	基準年度 2013年度実績	2023年度 推計見込値	目標年度 2030年度
温室効果ガス排出量※	229.3千t-CO ₂	133.0千t-CO ₂	91.3千t-CO ₂
2013年度比削減率	—	42%	60%

※再エネ導入、地球温暖化対策にかかる各種取り組みなどによる削減効果（貢献度）を踏まえたもの。

2 平戸市役所の温室効果ガス排出量について

「平戸市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」では、2050 年の「ゼロカーボンシティひらど」の実現に向けた温室効果ガス削減の中期目標として、2013（平成 25）年度との比較で 2030（令和 12）年度 60%削減を掲げています。

2023（令和 5）年度の市役所（※）における全体の温室効果ガス排出量は 5,860t-CO₂ となり、国の基準年度となる 2013（平成 25）年度の排出量と比較すると 38.8%減少しており、平戸市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の基準年度となる 2019（令和元）年度の排出量と比較すると 7.3%減少しています。

温室効果ガス排出量が減少した主な要因は、電気事業者の排出係数が下がったこと、及び施設の照明器具の LED 化などによるものです。

※教育委員会、消防本部、病院局、水道局及び交通船を含む。

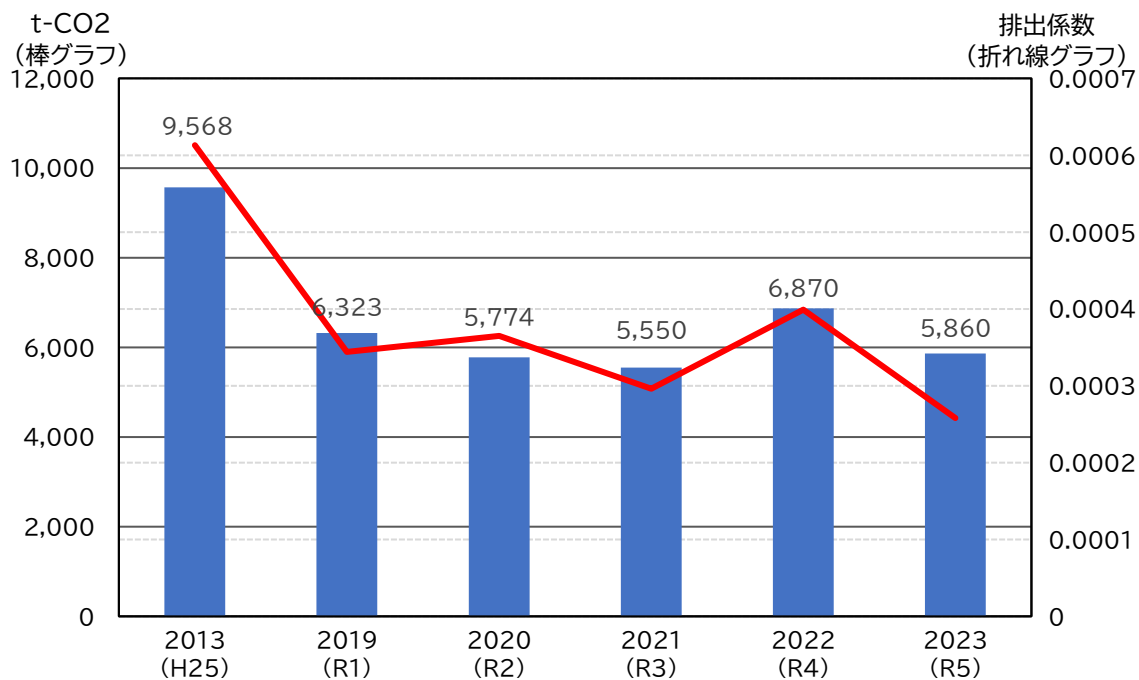


図2 平戸市役所における温室効果ガス排出量の推移

表2 平戸市役所における温室効果ガスの削減目標

項目	国基準年度 2013年度実績	市基準年度 2019年度実績	2023年度実績	目標年度 2030年度
温室効果ガス排出量	9,568t-CO ₂	6,323t-CO ₂	5,860t-CO ₂	3,827t-CO ₂
2013年度比削減率	—	33.9%	38.8%	60.0%
2019年度比削減率	—	—	7.3%	39.5%

発生源別温室効果ガス排出量の割合については、電気の使用からの排出が最も多く、全体の54%を占めており、次いで、燃料の使用からの排出が40%、自動車（公用車）の使用からの排出が6%となっています。

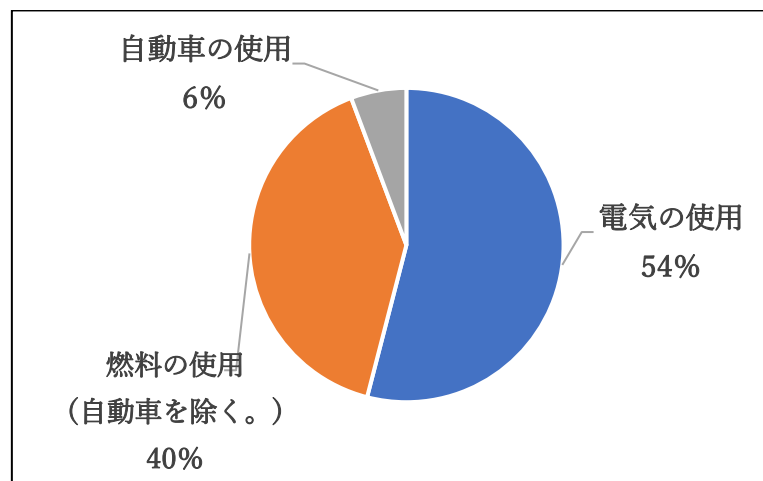


図3 発生源別温室効果ガス排出量の割合（2023年度）

2023年度におけるエネルギー種別の温室効果ガス排出量の割合では、電気が全体の54%を占めており、次いで重油29%、灯油10%、ガソリン4%、軽油2%、LPG1%となっています。

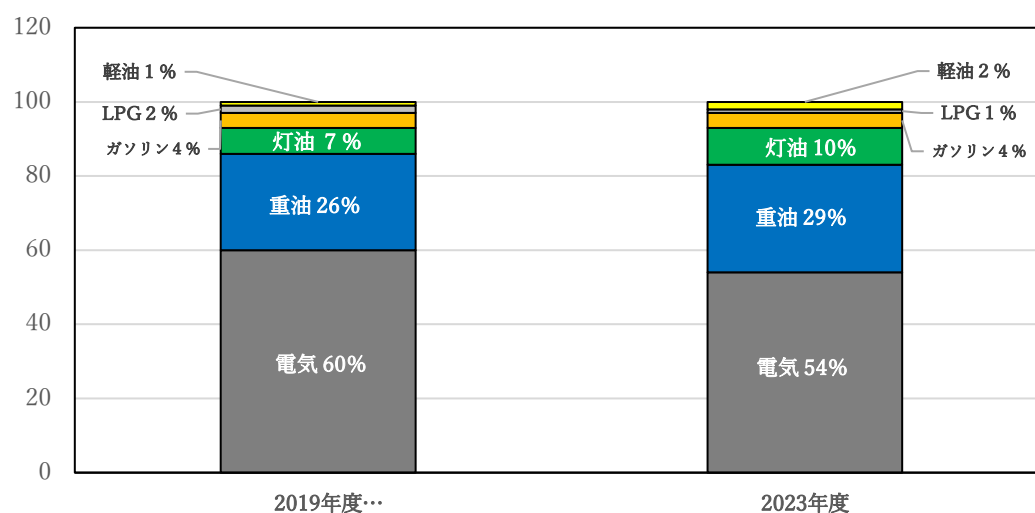


図4 エネルギー種別の温室効果ガス排出量の割合

2023 年度における施設分類別の温室効果ガス排出量の割合では、交通船が全体の 25% を占めており、次いで水道施設 20%、病院施設 12%、保健体育施設 10%、公用車 7 %、学校、庁舎及び観光施設 5 %となっております。

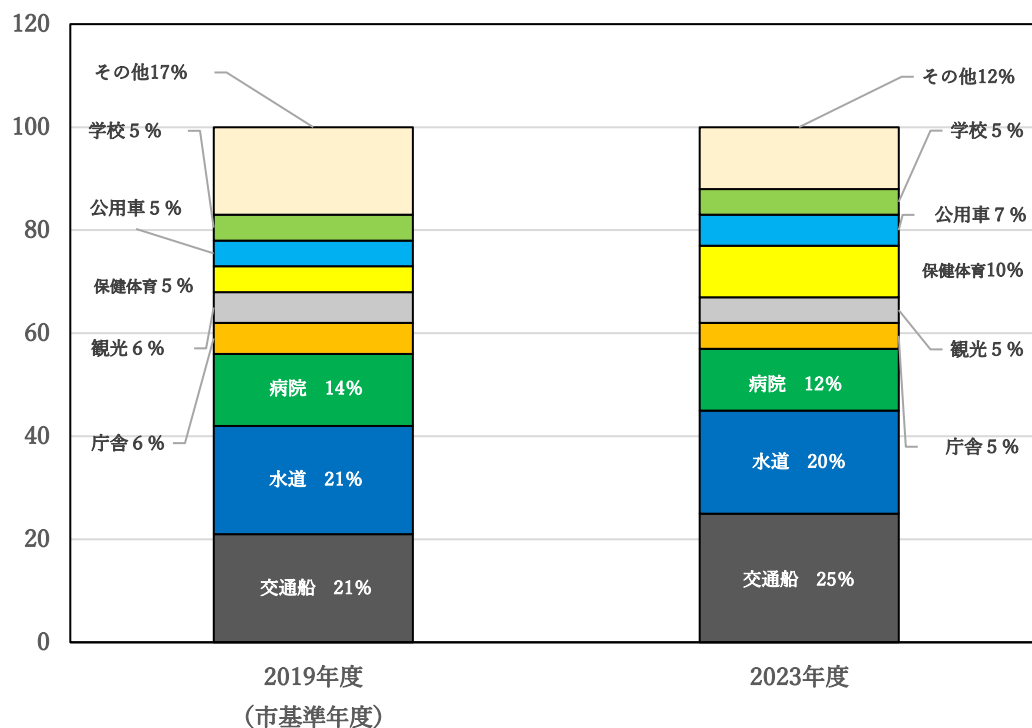


図 5 施設分類別の温室効果ガス排出量の割合

3 2023（令和 5）年度の総括及び今後の方向性

平戸市域及び市役所における温室効果ガス排出量は、直近 4 年間ではほぼ横ばいで推移しているものの、平戸市域においては、風力発電や太陽光発電による再生可能エネルギーの導入による貢献や、電気自動車、ハイブリッド自動車などエコカー等の買い替え、市民向け高効率給湯器の買い替え等を支援する平戸市地球温暖化対策設備等導入促進事業の実施など、地球温暖化対策にかかる継続的な取組みにより、一定の削減効果（貢献度）を上げてきています。

また、市役所においては、公共施設等の LED 化、公用車の次世代化、廃食用油からなるバイオディーゼル燃料の利用など、継続的な取組みにより、一定の削減効果を上げてきています。

今後も、平戸市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）、及び 2030 年度までにより重点的に取り組む施策を取りまとめた「平戸市地域脱炭素重点プロジェクト」のもと、目標達成に向けて、豊かな自然環境を保全しながら、市民および事業者の皆さんと連携・協力し、より一層地球温暖化対策に取り組んでいきます。